

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	-(事務局用)	行政データをもっと身近に!～自治体オープンデータ推進に向けて～	茨城県水戸市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	Good Appetite!～地産地消でよい食事を～		

(注1) 地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名(公開)	大原学園 COG チーム		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2	
メンバー数(公開)	学生 5 名、教員 1 名		
代表者(公開)	多田嘉夫(指導教員)		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募内容の公開>

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示-非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、**非公開**です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

<b style="color: red;">アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
--	----------

2. アイデアの説明(公開)

(1) アイデアの内容(公開)

(1)アイデアの内容、(2)アイデアの理由、(3)実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、**何を**する社会的な活動(サービス)なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい**なる、そしてその結果として、課題が解決される、そんな**わくわく感のあるアイデア**を期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

<応募チームとして**解決したい課題のポイント**はこれです！を**ごく短く以下**に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

○「オープンデータ」の活用を通して、地域の活性化を図りたい。

○「地産地消」の興味・関心度を高めて家族世帯の食卓を変えたい。

水戸市では、オープンデータライブラリーに600を超えるデータが公開されている。しかし、現状、データの活用事例の調査は行われていない。そこで私たちは、公開されているオープンデータの中の「みとつま～地産地消推奨店～」を起点に、「水戸市農業基本計画(第4次)」や「水戸産業振興ビジョン」掲げられている「地産地消の推進」に資する企画を通してオープンデータの活用意義を広めると共に地産地消のイベント開催により家族世帯の食卓を変えたい。

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

★『何を』するアイデアか(『いつ』『どこで』で実施するのか)

基本計画: 水戸市の小学校の校庭で**地産地消**にまつわる**食フェス**を実施

学生(大原) & 水戸市 & 地産地消推奨店 & 地元農家が一体となって開催

➡ When: 春(3月)秋(10月)の年に2回実施 ※2024年度は8月の「緑岡ふれあい夏まつり」の一環として実施

水戸市の小中学校では、平成25年から「みとちゃん献立」を導入し、月に2回程地場産物及び特産物を給食に取り入れている。児童生徒の地場産物への興味・関心を深め、農産物を作っている生産者やその食材への感謝の気持ちを育むといった食育の推進に努めており、約50の小中学校(小学校33校、中学校16校)が実施している(『給食だより』平成28年1月特別号 水戸市教育委員会・水戸市栄養士会発行)。しかし、学生アンケート調査結果から、水戸市の地産地消推奨店を利用している学生は多いものの、地産地消推奨店だと知らずに訪れているという実態が分かった(p.4別表_5参照)。そこで私たちは食育の推進を図っている小学校のグラウンドで、水戸産の食材を使った食フェスを行うことで、家族世帯を中心に地産地消について考える機会が作れるのではないかと考えた。

～みとちゃん献立～(双葉台小学校) 水戸市のマスコットキャラクター～みとちゃん～ 水戸美味(みとつま)



※「豚肉のカラフルかりん揚げ」
茨城県産の豚肉と水戸産のパプリカを使用
「野菜のマヨあえ」
茨城県産のごぼう、キャベツ、小松菜使用



みとちゃんは、水戸黄門と水戸市名産の納豆をモチーフにしたご当地キャラクターである。
(水戸市公式ホームページ)



水戸市内で地産地消に積極的に取り組んでいる飲食店(80店舗)

★『どのように』

食フェスでは、下記のように3つを融合して開催する。

○「水戸美味(みとつま)」登録店による出店(80店舗うち7店舗)

※緑岡地区における小・中学校の学校だより、
学校HP、水戸市 SNS 等で周知する。

+

スタンプラリー(同日紙カードを配布)

水戸美味(みとつま)登録店に出店を依頼。(直接お店へ趣旨説明する)水戸産の食材を使ったお店の料理を提供していただき、地産地消推奨店だということをお客様に認知してもらう。お客様が商品を購入すると1スタンプ付与され、期間内に1人3スタンプ貯めると抽選会に参加することができる。

～参加者景品一覧～

キックボード×1、任天堂スイッチソフト×1、デジタルカメラ×1、クーポン券×5、お菓子×参加者

2024年度は、緑岡学区
内7店舗中3店舗程の
協賛を目指します。

2. アイデアの説明(公開)

(1) アイデアの内容(公開)

○地元農業団体による野菜販売 & オリジナル料理(試食)の提供

旬の地元食材を販売し、農家と地域住民とのコミュニケーションを通じて興味・関心を高める。

Ex) 青パパイヤ… 豊富な酵素と、ビタミン、ミネラル、食物繊維などの栄養素を含む「野菜の王様」。特に、ポリフェノールには強い抗酸化作用があり、生活習慣病の予防に効果がある。(水戸市ホームページ水戸パパイヤ栽培研究会、マインド・コア(株)) 現状水戸市民は死亡者の死因うち悪性新生物(がん)心疾患、脳血管疾患といった生活習慣病が5割以上を占める(水戸市オープンデータライブラリー統計年報「死因別死亡順位」厚生労働省調べ)ため、右図の野菜を取り上げることによって、水戸市産の認知度向上を図るだけでなく健康増進を促すことが出来る。※水戸市民で健康に関心のある人は、94.3%(1202人うち1130人)である。(水戸市地域保健課)



※2023年9月から出荷開始

○ステージイベントの開催

・児童、先生、地域団体によるステージ発表を実施 ※地域団体はちらしで呼びかけ

コロナ禍で学校行事が制限・中止になってしまった生徒・児童が、思い出に残るような「場」を設定。食フェスを長く楽しんでもらう他にもそういった意味合いが込められている。

Ex) 歌、ダンス、演奏、モノマネ、マジック

・地元農業団体による野菜・果物のクイズを実施

水戸産の食材にまつわる〇×クイズを行い、食材知識を深めると共に、地産地消の興味・関心度を高める。更に家庭でも参考にできるようなオリジナルレシピを公開し、家族世帯の食卓の一品料理として推進する。全問正解者には水戸産の野菜をプレゼントする。

😊 地産地消 × SDGs 環境問題に貢献?! 他にもこんなメリットが!!

【SDGs7】エネルギーをみんなにそしてクリーンに

【SDGs13】気候変動に具体的な取り組みを



地元で農産物を作り地元で消費するため、輸送時に発生するCO2を削減でき、地球温暖化を抑えることに繋がる。

【SDGs14】海の豊かさを守ろう

【SDGs15】陸の豊かさを守ろう



地元の海で育てた魚介類や地元の農地で育てた農産物を消費することで、その地域の海洋資源、農地を守ることに繋がる。

(2) アイデアの理由(公開)

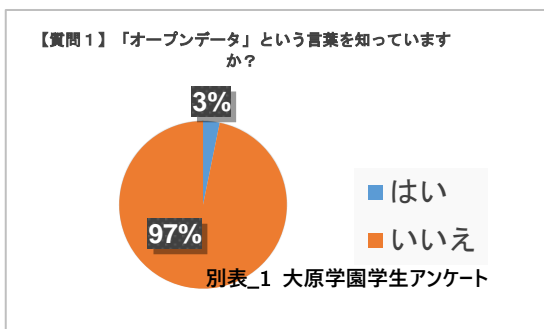
次にアイデアを提案する理由(なぜ)について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由(なぜ)を書いていきます>

<先の(1)で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

1. 水戸市の抱える課題

水戸市では多くのオープンデータが公開されている。しかし、活用事例の調査は行われておらず、データが有効に活用されているとは言い難い状況にある。チーム内でも行政の提供するデータと市民の求めるものとの間に乖離があるのではないかとの疑問も挙げたが、所管課のデジタルイノベーション課でも、オープンデータの活用状況への調査は実施されておらず市民ニーズの実態も分からなかった。そこで私たち大原学園水戸校 COG グループは、先ず自校法律行政科に在籍している学生 185 人を対象にアンケート(※)を実施した。



※アンケートは、オープンデータライブラリー内の「みとうま～地産地消推進店～」を加工して作成した。

185 人中オープンデータを知っている学生は、6 人の3

(3.2)%であり、179 人の約 97(96.8)%の学生が

知らなかったという結果となった。(別表_1)オープンデータを知って

いた学生の知ったきっかけとして「先生方から話を聞いた」「面接対

策の中で知った」が挙げられた。こうした結果を受け、私たちはオー

プンデータを活用し、少しでも関心度・認知度を向上さ

せたいと考え

た。

2. 食フェスを開催する経緯

(1)「みとうま」と「地産地消」の現状

・広くオープンデータを活用してもらうために、私たちのチームでは、オープンデータライブラリー内に投稿されている「みとうま～地産地消推進店～」を起点としたイベントを企画することにした。

・「水戸美味(みとうま)」とは地元の農業を応援し地域活性化を図るため、地産地消に積極的に取り組んでいる店舗を地産地消推奨店として登録し、水戸市のホームページやガイドブック等を利用し PR していくという取り組みである。

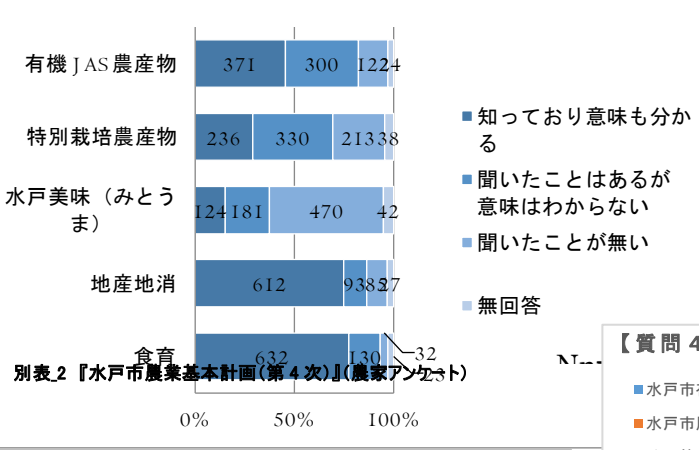
地元農業を応援していく名目であるが、『水戸市農業基本計画(第 4 次)』(農家アンケート)においても、農家の方々にはあまり周知されておらず、約 18%の方々にしか認知されていない現状である。(別表_2) また、大原学園で実施した学生対象のアンケートでも、「みとうま」を認知しているのは 185 人中 1 人の(0.5%)であり、水戸市の地産地消推奨店を利用した際の張り紙で知ったとの事だった。

・「地産地消」の認知度としては、上記「農家アンケート」(別表_2)において水戸市の農家の方々は約 77%が認知しており意味までも理解している。しかし、そのほかの約 23%の方々は意味を理解されていない方やそもそも聞いた事がないとの結果であった。

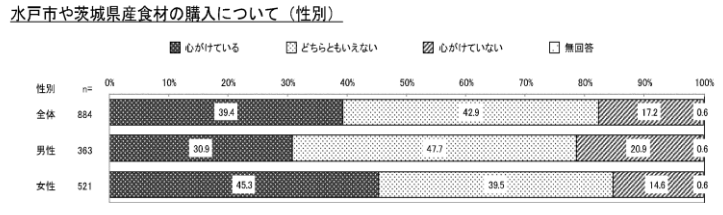
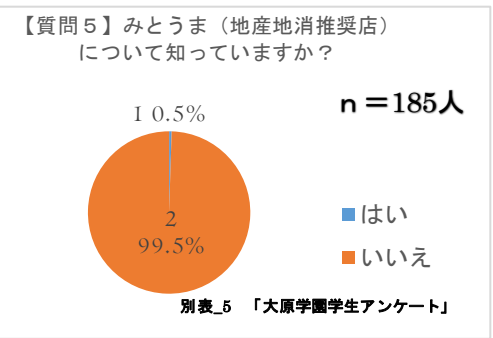
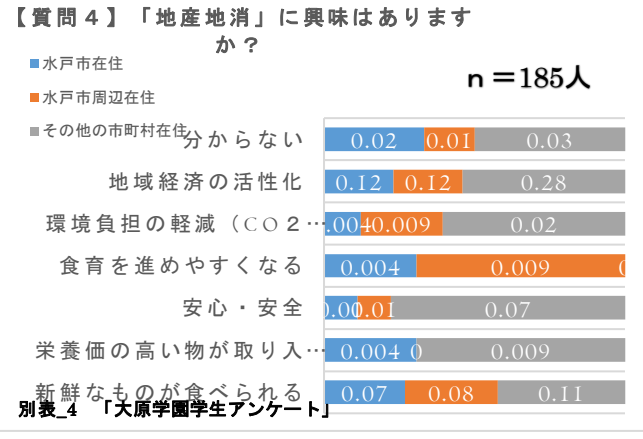
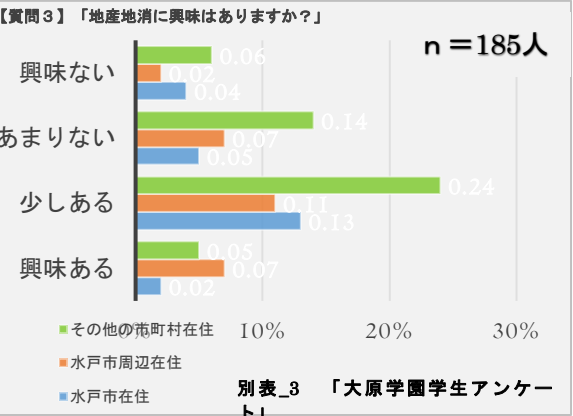
また、大原学園の学生に対して実施したアンケートでは、「地産地消」への興味・関心度について、約 62%の学生が興味を持っており、「地産地消が地域経済の活性化に繋がる」、「新鮮な農産物が食べられる」と考えている学生が大半であった。(別表_3, 4)

2. アイデアの説明(公開)

(2) アイデアの理由(公開)



しかし、『水戸市健康増進・食育推進計画(第3次)策定のための健康と食に関するアンケート』調査結果によれば、「水戸市や茨城県で生産された食材を買うよう心がけていますか」との問いに対して「心がけていると回答したのは、4割程度であった。(別表6)「地産地消」についての認知度はある程度ありながら、実際の消費行動に繋がっていないことが、このデータからも理解できる。



別表6 『水戸市健康増進・食育推進計画(第3次)策定のための健康と食に関するアンケート』 (2)なぜ食フェスなのか?

「食」となると農家、飲食店、市民、行政といった多くの対象を巻き込んだ取り組みが可能であると考え、そこで私たちは食フェスを開催する事で関係者一同が、地産地消に取り組む事で地域の活性化や地域コミュニティの促進も可能であり、4つの対象による好循環を生み出す事が出来るのではないかと考えている。また、アイデアの内容「地産地消×健康」にも記載がある通り水戸市民の方々は健康に関心のある方が非常に多い傾向にある為、フェス自体の需要は高い物になると考えている。計画している食フェスを通して、全員の「思い出となるフェス」を目指している。

私たちは思い出の舞台として小学校を選んだ。その理由の一つは、「令和4年度学校給食における地場産物の活用状況調査」(茨城県教育庁HPより)において水戸市の活用割合は74.2%との結果が出ており、小学生が「地産地消」を身近に感じる環境にあることが分かる。学校に通う子供たちが成長し、地元を離れた後も、水戸市の食材を通して水戸市への愛着を感じて欲しいと考えている。こうした取り組みが将来的に水戸市の「関係人口」増加に繋がると考えた。その為にもフェスの会場に長時間滞在して頂き、思い出となるようなステージ発表や抽選会等を企画している。食フェスを楽しみながらも「みとうま」、「地産地消」に触れる機会を設けていく事で、参加した子供たちが将来の職業選択の際に地元の農家や飲食店経営者、行政職員を目指したいと思えるきっかけの場ともなるのではないかと考えている。また、一緒に参加されたご家族が、食を通して「健康」「SDGs」への興味や関心を持ってもらいたい。

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1 実現する主体

学生(大原)&水戸市(農産振興課・市民生活課)&地産地消推奨店&地元農家が主体となって運営します。

2 実現に必要な資源(ヒト, モノ, カネ)

- (1)ヒト:大原学園関係者6名(学生・教員)が中心となり企画。水戸市, 地元農業団体, 「みとうま」加盟店, 農家の方々へ協力を要請。
- (2)モノ:開催会場である小学校を水戸市見川地区の緑岡小学校とする。見川地区にはみとうま加盟店が7店舗あり, 他の地区よりも加盟店の数が多い。抽選会の景品、地元産の野菜等が必要。
- (3)カネ:必要な経費は抽選会の景品代(キックボード、デジタルカメラ等)チラシ代。想定予算4~5万円(協賛団体とも相談)



3 実現に至る時間軸を含むプロセス

1.「食フェス」開催決定に至るプロセス(PLAN)

11月7日(火) 水戸市デジタルイノベーション課にて、オープンデータについての学習会実施(右上写真、水戸市での学習会の様子)。

オープンデータライブラリーの中から、オープンデータ活用の切り口となるテーマを探すことになる。

11月中旬 オープンデータ内の「みとうま 地産地消推奨店」を利用した地産地消のフェスの企画を立案。

11月20日(月)水戸市農産振興課に、①水戸市での地産地消の認知度データ ②「みとうま」の認知度のデータに関する資料請求。(12月4日までに地域保健課, 農産振興課より回答を頂く。)

11月27日(月)フェス企画内容(フェス開催とオープンデータとの関係)についてデジタルイノベーション課課長より助言を頂く。「みとうま」加盟店情報(オープンデータ)を活用したフェスの実施について正式決定。

11月28日(火)学生向けアンケート作成。

作成理由:水戸市役所は「オープンデータ」と「みとうま」に関する認知度調査事例が乏しい為、実施コンセプトのデータ上の根拠を確認するためアンケートを作成した。

※アンケートは、オープンデータライブラリー内の「みとうま～地産地消推進店～」リストを加工して作成。

11月29日(水)大原学園水戸校法律行政科学生約200人に対して、「みとうま」「地産地消」に関する調査を実施。アンケートの結果から、水戸市に通学する学生の「みとうま」の認知度は低いが、「地産地消」に対する関心は高い事が判明し今後の施策検討のヒントとなった。

11月30日(木)水戸市市民生活課係長にフェスの運営方法について具体的な助言を頂く。開催費用や来場者の駐車場確保が課題として挙がる。

12月7日(木) デジタルイノベーション課課長より、イベントの告知方法やスタンプラリー等の当日の運営そして、予算確保などに関して具体的な課題提起を頂く。

12月11日(月)水戸市農産振興課訪問。

目的:チームが検討しているフェスの実行性(予算・会場・運営主体)について確認。

・農産振興課より小学校を舞台とした単独フェスについて助言を頂く。助言内容としては、以下の通りである。

- ①予算確保や様々な手続き上の問題から、単独開催は困難である。
- ②学区に限定すれば、駐車場や運営費用の問題も解決しやすくなる。
- ③最初は、単独開催ではなく他団体の既存主催の地域イベントと協賛するのが現実的である。

12月12日(火)チームでフェスの方向性について検討。今回は、単独開催(基本計画)を断念し「緑岡市民センター」,「地域実行委員会」と連携。(緑岡小学校を会場とする)

(緑岡小学校を選んだ理由)

2. アイデアの説明(公開)

(2) アイデアの理由(公開)

- ①小中一貫校という特色とともに、在籍生徒数も他の小学校よりも多い(児童数 927 人)。
- ②緑岡小学校の該当地区には、「みとうま」加盟店が多く、7 店舗が点在している。
・洋食屋 1店舗 ・和食屋 1店舗 ・麺屋 2店舗 ・スイーツ店 3店舗

同日 緑岡市民センター長にイベントの実施状況と市民センターで行われているイベントへの参加方法についてアドバイスを頂いた。

- ・市民センターでのイベントの実施状況:3月 市民センターまつり 8月 緑岡ふれあい夏まつり
- ・参加方法:4月下旬までに企画書を市民センター長と地域実行委員会に提出。

2. 今後の予定(DO)

- 2024年 2月 農産振興課へ企画案をプレゼン。フェスの後援を依頼する。
- 2024年 3月 見川地区の「みとうま」加盟店に直接イベントの趣旨を伝え、参加協力を要請。
- 2024年 3月 地元農業団体に協力してもらえる生産者のご紹介を要請。
協力頂ける「みとうま」加盟店と生産者で打ち合わせを行い、企画書を作成する。
- 2024年 4~5月 緑岡市民センター長、地域実行委員会委員長に企画をプレゼンする。
- 2024年 8月 緑岡ふれあい夏まつりで「みとうまフェス」の開催を目指す。

3. 実施後の検証(SEE)

アンケートの実施を通して実施内容を検証(現状を修正の上での継続, 単独開催・廃止など)する。

◎「行政データをもっと身近に」に向けての第一歩として

今回の企画立案のプロセスで必要となったデータ一覧表を作成し、水戸市役所に提出。オープンデータライブラリーへの掲載等の検討を依頼する。依頼したいオープンデータに関する事項は以下の通りである。

- ①水戸市のオープンデータの活用事例と認知度
- ②水戸市での「みとうま」「地産地消」の認知度・関心度に関するデータ
『水戸市健康増進・食育推進計画(第3次)策定のための健康と食に関するアンケート』調査結果など
- ③オープンデータを随時更新し様々な情報の提供 例)令和4年「みとうま」加盟店のデータを令和5年に更新等
- ④市民センターで行われているイベント情報(お祭りなど)

オープンデータが行政と市民との間を繋ぐツールとして、市民と行政の対話が大切である。その為、以上の事項をオープンデータライブラリーに掲載して頂き、オープンデータをより充実させていききっかけになりたい。